

2025 SPODフォーラム

シンポジウム「学生が安心して学びに向き合う大学の基盤づくり」

話題2 学生支援の現場から見た現状や課題

大学における学生支援の今

2025年8月28日

高知県公立大学法人



高知工科大学 就職支援課長



前 高知県立大学 教務・学生支援課長

島田 くみこ

内容は個人の見解によるもので所属組織の見解ではありません。

Unauthorized reproduction prohibited.

本日の内容

高知県公立大学法人
0 高知工科大学と高知県立大学の概要

■ 高知県立大学 教務・学生支援課の視点から ■

1 学生支援を取り巻く状況の変化

2 学生支援の現状と課題

3 今後の展望と必要な対応

0 高知工科大学の概要

構成・学生数

学 群	2,440※
システム工学群	764
理工学群(1～3年生)	298
環境理工学群(4年生)	108
情報学群	434
データ&イノベーション学群	129
経済・マネジメント学群	707

工学研究科基盤工学専攻	351※
修士課程	283
博士課程	68

※2025年5月1日現在

沿革

- 1996年12月 学校法人高知工科大学設立
- 1997年4月 公設民営大学として開学(工学部5学科)
- 2008年4月 マネジメント学部開設
- 2009年4月 公立大学法人高知工科大学設立
工学部5学科を学群専攻制に再編
- 2015年 高知県公立大学法人と法人統合
経済・マネジメント学群設置(マネジメント学部を再編)
永国寺キャンパスに移転(マネジメント学部2年生以上)
- 2023年 環境理工学群を理工学群に名称変更
第5代学長 蝶野 成臣 就任
- 2024年 データ&イノベーション学群設置



学長 蝶野 成臣

就職率

全 学 群	県内就職率
94.1%	17.3%

2025年3月学士課程卒業生

教職員数

教 職 員	253※
教 員 (学長・副学長含む)	165
職 員	88

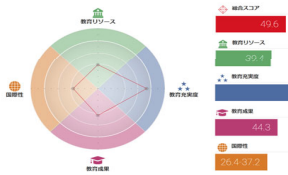
※2025年5月1日現在

「THE 日本大学ランキング2025」

高知工科大学

日本大学ランキング2025
=80
1501+

ランキングデータ



	全 国(257大学中)	エリア別(中国・四国)
総 合	80位	7位
教育充実度	53位	3位
教育成果	33位	3位

<評価指標>

教育充実度:高校教員における評価、在学生における評価
教育成果:学術的評価、企業における評価

- 香美キャンパス 高知県香美市土佐山田町
システム工学群、理工学群、情報学群、
データ&イノベーション学群



- 永国寺キャンパス 高知県高知市永国寺町
経済・マネジメント学群



出典 <https://japanuniversityrankings.jp/rankings/pillar-ranking/engagement/>

0 高知県立大学の概要

構成・学生数

学 部	1,449※	大学院	87 ※
文化学部(夜間主含む)	650	看護学研究科 看護学専攻	博士前期課程 29 博士後期課程 28
看護学部	330	看護学研究科 共同災害看護学専攻	博士課程 2
社会福祉学部	300	人間生活学研究科	博士前期課程 22 博士後期課程 6
健康栄養学部	169		

※2025年5月1日現在

沿革

- 1944年 高知県立女子医学専門学校設立
- 1947年 高知県立女子専門学校設立
- 1949年 高知県立高知女子大学設立
- 2011年 高知県立大学に校名変更、男女共学化
大学の設置者を高知県公立大学法人に変更
初代学長 南 裕子 就任
- 2015年 公立大学法人高知工科大学と法人統合
- 2017年 第2代学長 野嶋 佐由美 就任
- 2024年 第3代学長 甲田 茂樹 就任



学長
甲田 茂樹
Shigeki Koda

Uok Vision2033 (高知県立大学10年戦略)

～今後10年間で高知県立大学が目指す姿～

就職率

全 学 部	県内就職率
96.4%	34.1%

2025年3月学士課程卒業生

国家試験合格状況

	合格率
看護師	100.0%
保健師	98.6%
助産師	87.5%
社会福祉士	93.4%
精神保健福祉士	100.0%
介護福祉士	100.0%
管理栄養士	88.1%

2025年3月学士課程卒業生

教職員数

教 職 員	197※
教 員 (学長・副学長含む)	120
職 員	77

※2025年5月1日現在

●池キャンパス 高知県高知市池

看護学部・社会福祉学部・健康栄養学部



●永国寺キャンパス 高知県高知市永国寺町

文化学部(夜間主含む)、地域教育研究



0 高知県立大学の概要

◆【理念】

平和な社会発展及び人々の生活の質の向上に向け、知の創造に寄与する学術研究を行うとともに、地域志向の教育研究を通じ、地域の文化の発展と健康・福祉の向上に貢献する。

◆【UoK Vision 2033】高知県立大学10年戦略～今後10年間で高知県立大学が目指す姿～

戦略1: 学びの多様性を通じた「自己実現」に向けたキャンパス

四年間の学生生活の中で、多様な学問の学びと多様な交流ができる環境を提供し、アイデンティティを育てます。

戦略2: 「即戦力人材」の育成と輩出

高度な専門知識や実践での学びと経験を取得し、大学から社会へ羽ばたく優秀な人材を育て送り出します。

戦略3: 「地域共生社会」を支援する実践的な教育・研究

「県民大学」として教育研究の成果を還元することで、「人や地域とのつながり」による社会課題解決を目指した取組みを行います。

◆【特色ある取り組み】

1. 「地域に学び、地域で育つ」教育プログラム

地域共生推進副専攻 専門知識を生かして地域で活躍できる人材を育成

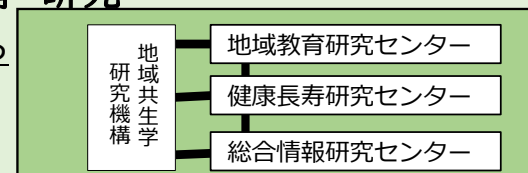
専門知識を学び現地で実践、所定のプログラムを修了した学生→地域共生推進士（高知県立大学独自の称号）

2. 地域課題の解決に主体的に取り組む学生を支援する「立志社中」プロジェクト（2013年からスタート）

2024年は7チーム184名の学生が、自発的な企画によって、高知県内の各地へ飛び出し地域の活性化に力を発揮

3. 「地域共生学研究機構」を中心とした「地域共生社会」の実現を支援する実践的な教育・研究

分野横断・共創的な研究を推進し、研究成果の社会還元機能を強化し、地域共生社会を支援する「リ・デザインプロジェクト」を展開



Ⅰ 学生支援を取り巻く状況の変化

- ✔ 学生の多様化
- ✔ 学修者本位の教育への転換
- ✔ デジタル化の進展
- ✔ 国の高等教育修学支援新制度の開始
- ✔ 障害学生への合理的配慮実施の義務化
- ✔ 社会から求められる人材の変化
- ✔ インターンシップ四類型化
- ✔ 採用活動の早期化
- ✔ 予算削減

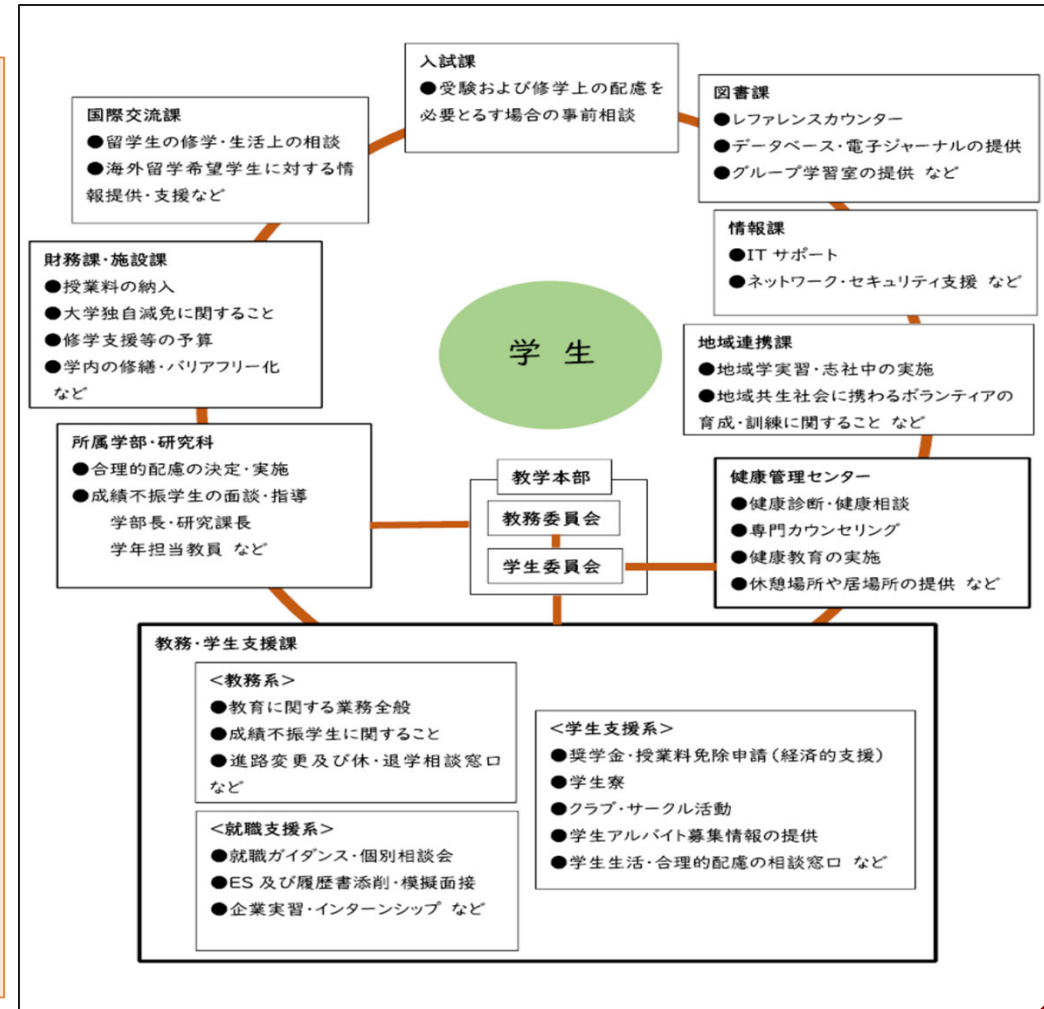
2 学生支援の現状と課題

高知県立大学の学生支援とは

【学生支援の方針】

1. 一人一人の学生が自らの専門性を高め、その人らしく自己実現できるよう、多様な学生のニーズに応える**教育支援**を行います。
2. 学生との対話を重視し、学生が主体的に学ぶことができるよう、教職協働で**教育環境**を整えます。
3. 心身ともに健康で安心して学業に専念し、豊かな人間性を育むことができるよう、**学生生活支援**を行います。

【学生支援体制(略図)】



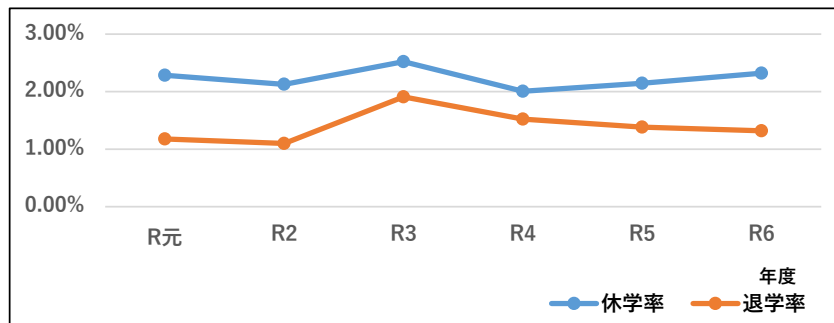
※図は本学の規程及び学生便覧・本学Webサイト等を参考に作成

2 学生支援の現状と課題

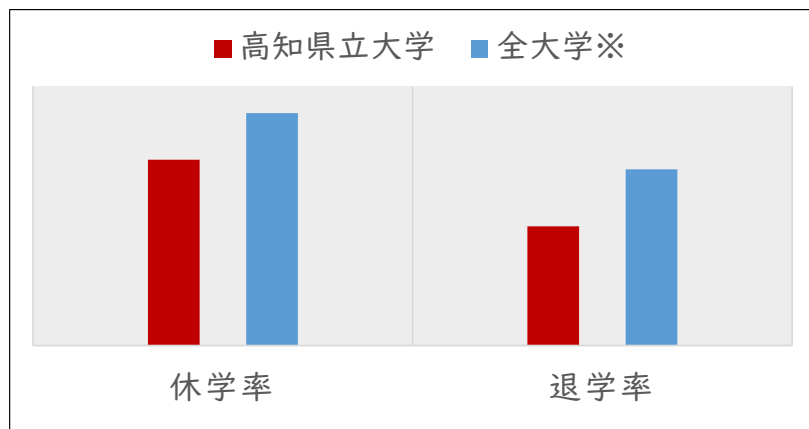
学修の継続に事情を抱えている学生への支援について

◎ 休・退学状況（学士課程）

➤ 高知県立大学の休・退学率（学生数比）



➤ R5（2023）年度の休・退学率比較



※ 文部科学省 令和5年度学生の中途退学者・休学者数の調査結果より

◇ メンタル不調などの学生が増加している。

◇ 様々な要因が重なっている。

◇ 1回生の時点で大学生活に躓く学生が現れている。

◎ 成績不振学生等に対する取組

病気、成績不振等その他の理由による休学・退学等の早期発見のために面談を実施している。

- ・面談の対象となる学生の基準を見直し、R6年度に実施要領を改定。学期毎に該当する学生データを学年担当教員などに提供して、学年担当教員などが面談を実施。
- ・その結果、修学支援が必要な兆候が見られた学生には、「高知県立大学障害学生支援における基本方針」に基づき、教務・学生支援課（学生支援担当）に速やかに引継ぎ、継続的な学生への支援を実施。
- ・連絡がつかない学生については、学生本人に保証人へ連絡する旨をポータル及び電話で1回伝える。学生から応答がない場合は、再度ポータルで連絡したうえ、保証人に状況を伝えて、その後の対応を担当教職員で検討。
- ・学期GPAが2連続して基準以下かつ直近の成績評価が2/3以上が「欠席」の場合は、面談終了後に、面談担当教員が保証人に成績状況を伝えることを話し、学生支援担当から保証人に電話報告。

2 学生支援の現状と課題

◎ 新入生に対する取組 「先輩と話そう！」

▣ 年齢が近い先輩と話をする機会を設定している。

- ・4月の新入生の集いの中で設定（ドリンクやお菓子を準備）。
- ・様々な学び、地域活動をしている学生が先輩として参加。
- ・学年担当教員等や教務・学生支援課の職員が参加。
- ・新入生は、カテゴリーごとのブースに行き、自由に話を聞く。

◎ 授業料未納学生に対する取組

▣ 授業料未納学生情報を共有のうえ、必要に応じて面談を行い支援している。

- ・学生委員会で学部別・学年別の人数などの状況を共有。
- ・該当する学生の情報は、学生が所属している各学部の教員（学生委員）に情報を提供。
- ・必要に応じて、教員が面談を実施し、職員に情報共有。
- ・必要に応じて、教務担当、学生支援担当、財務担当で学生の状況を共有して支援方法を検討する場合がある。

◇ 連絡がつかず面談も実施できない学生がいる。

◇ 連絡がついても面談自体を嫌がる学生もあり、様々な方法を検討する必要がある。

◇ 面談を実施しても状況が改善されない学生もいる。

▶ 学生支援の質も求められる。

▶ 学生支援を必要としている学生自身の現状を把握し、学生の立場を理解することも必要。

▶ 教務の知識に加えて、学生支援に必要な知識全般を把握し理解することが求められ、習得した知識を学生に応じて柔軟に使い支援していくことが必要。

▶ 引き続き、必要に応じて保護者とも連絡を取りながら教職協働で支援していくことが重要。

2 学生支援の現状と課題

経済的支援(学士課程の奨学金/授業料免除)について

日本学生支援機構 (JASSO)

貸与奨学金

無利子奨学金

有利子奨学金

区分	貸与金額	貸与期間
第一種 (無利子)	自宅生 月額20,000円、30,000円、45,000円	修年限 (4年間)
	自宅外生 月額20,000円、30,000円、40,000円、51,000円	
第二種 (有利子)	月額 20,000円~120,000円 (10,000円刻み)	

➤ 家計急変対応 (無利子奨学金の緊急採用)、(有利子奨学金の応急採用)

給付奨学金

国の高等教育修学支援新制度

支援内容:授業料等の減免、給付奨学金の支給

→世帯収入に応じた4段階 (第Ⅰ区分~第Ⅳ区分) の基準で
支援額が決定

対象学生:住民税非課税世帯及びそれに準ずる世帯
学ぶ意欲がある学生

住民税非課税世帯 (第Ⅰ区分の場合)

		自宅通学	自宅外通学
給付奨学金		29,200円/年	66,700円/年
授業料等の免除・ 減額の上限額	入学金	282,000円/年	
	授業料	535,800円/年	

➤ 家計急変対応 (高等教育の修学支援新制度)

予約採用:進学する前年度に在学している高等学校などで在学中に手続きを行い、
入学後に「進学届」の入力や必要書類を提出することで給付・貸与が始まる。
在学採用:大学入学後に申請を行う。1次募集は4~5月、2次募集は9月~10月

高知県立大学
高知県立大学授業料等免除制度 1号申請 支援内容:授業料の減免(全額あるいは半額) 要件:品行方正かつ学力優秀である者であって、学費が不充分である者 ・一定の学力基準、家計基準を満たしていること ・日本学生支援機構等の奨学金の給付・貸与を受けていること ・前期の授業料を納入していること 申請期間:6月初旬~7月下旬 ➤ 2号申請(家計急変)1年以内に家計急変があった者を対象 随時申請

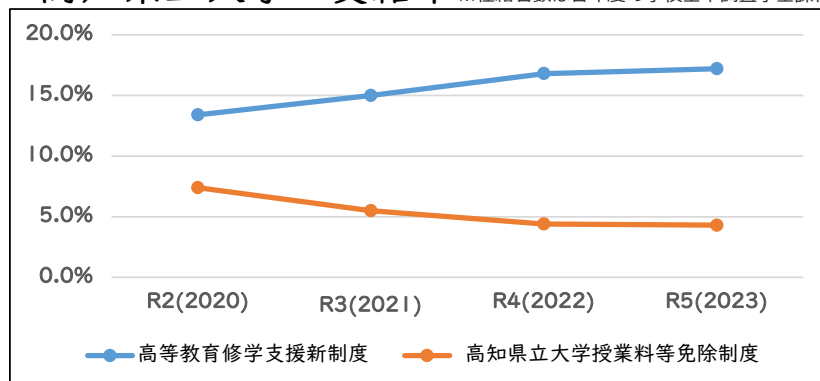
◎しらすぎ会(同窓会)及び後援会による支援事業

- ・高知県立大学後援会緊急奨学金及び高知県立大学同窓会しらすぎ会特例学生生活動支援金
- ・高知県立大学後援会/高知県立大学同窓会しらすぎ会奨学生事業
- ・高知県立大学後援会研究等支援事業

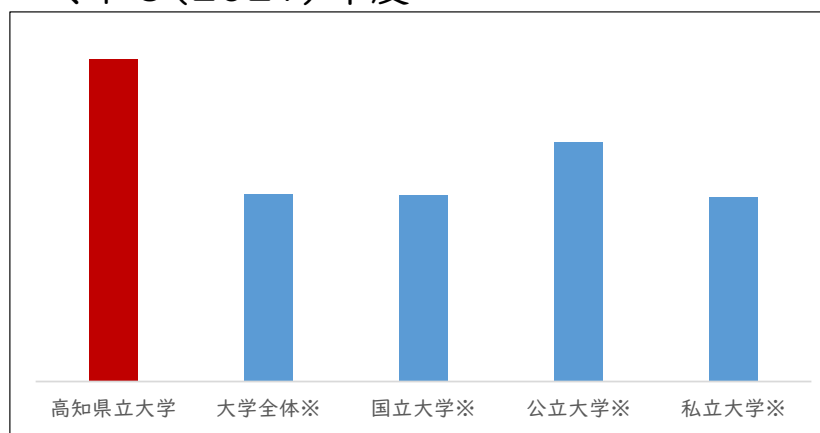
2 学生支援の現状と課題

◎ 経済的支援制度の受給状況

➤ 高知県立大学の受給率 ※受給者数/在籍者数 ※在籍者数は各年度の学校基本調査学士課程在籍者数

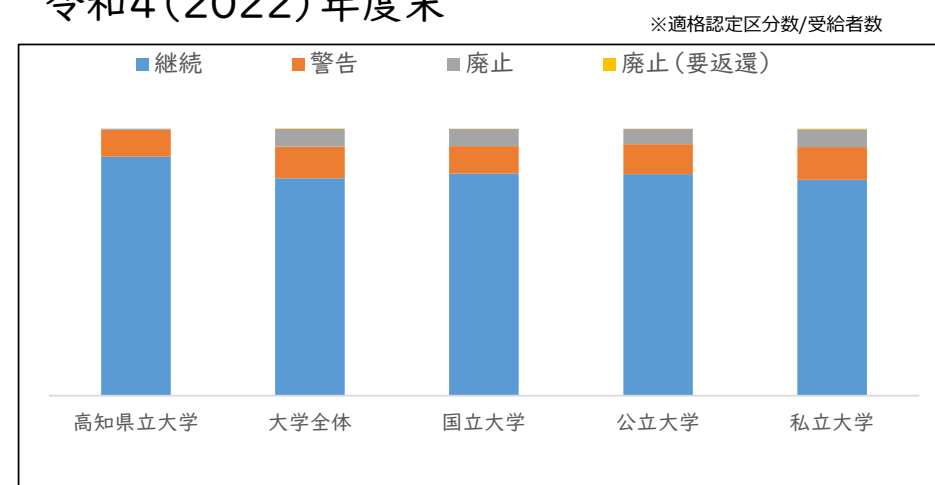


➤ 高等教育修学支援新制度受給率(推定)比較 令和3(2021)年度



※文科省 高等教育の修学支援新制度の在り方検討会議（令和4年度）令和4年12月14日「参考資料集」の受給者数（家計急変除く）/学校基本調査（令和3年度）学士課程在籍者数

➤ 高等教育修学支援新制度 適格認定(学業)状況比較 令和4(2022)年度末



※高知県立大学を除き、文科省 高等教育の修学支援新制度の在り方検討会議（令和5～6年度）令和6年6月28日「参考資料集」より

◎ 「廃止」等の対象になる可能性のある学生への取組

■ 令和6年度より、廃止、廃止（要返還）、停止、警告の各候補者に対して、現状を知らせることで、学生の自助努力によって、奨学金を受給しながら学びを継続していけるように支援している。

- ・GPAと総取得単位数から各候補者をリスト化し学年担当教員に共有。
- ・奨学金担当者が該当学生に現状を周知。
- ・特に、廃止（要返還）候補の学生に対しては、学年担当教員等と教務・学生支援課の教務担当者、奨学金担当者が面談を実施。
- ・必要に応じて保護者にも連絡。

2 学生支援の現状と課題

- ◆ 給付を継続できない学生は、成績不振、不登校、メンタル不調、経済的なことなど、複数の課題を抱えていることがある。
 - ▶ 経済支援の方策について、包括的に熟知する必要がある。
 - ▶ 休・退学や授業料納入に関する知識が必要となる。
 - ▶ 学生対応における知識と経験を蓄積し継承していく必要がある。
 - ▶ 関係各署との連携が一層必要となる。

2 学生支援の現状と課題

障害のある学生への合理的配慮について

◎ 国の法整備

2016年 施行

「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」
→国公立大学は障害学生への合理的配慮の実施が義務化

2024年4月1日施行

「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」が2021年法改正
→私立大学も障害学生への合理的配慮の実施が義務化

◎ 高知県立大学の障害学生支援について

【基本方針などの制定】

- ▶ 高知県立大学障がい学生支援における基本方針
- ▶ 障害を理由とする差別の解消の推進に関する教職員対応要領（以下「教職員対応要領」という）
- ▶ 障がいのある学生への支援について（申し合わせ）
- ▶ 「障がい害学生支援における基本方針」における対応（支援決定の流れ）

※障害の表記については、「障害」、「障がい」とあるが、以降は施行法に基づき「障害」とする。

◎ 障害のある学生の支援に関する取組

■支援体制

教務・学生支援課の学生支援担当を軸として、学部長、学年担当教員、健康管理センター員、入試課などと連携して、障害による修学上の困りごとや悩み・不安を抱えている学生への修学支援に取り組んでいる。

■全学支援に向けて

- ・障害のある学生支援の充実を図るために全教職員に対しFD・SD研修を実施
- ・教職員向けのサポートブックを作成し共有（永国寺キャンパス）

■支援を見直す体制

学生部長、学部長・研究科長、学年担当教員、教育・学生支援部、健康管理センター等の関連する教職員により、支援会議を開催、支援内容や実施体制について協議

■学生への周知

本学Webサイト「障害のある学生への支援」のページで、制定した基本方針類及び相談窓口を周知

＜相談窓口＞

受験生対象 入試課

在学生対象 健康管理センター及び教務・学生支援課
相談窓口一覧を配布（永国寺キャンパス）

オリエンテーションで窓口利用を説明

2 学生支援の現状と課題

◎ 支援決定の流れ ※高知県立大学HPより

1. 相談

【相談窓口】

○入学前

教育・学生支援部 入試課(連絡先:088-847-8789)

○合格決定後

教育・学生支援部 教務・学生支援課(連絡先:088-847-8577)

○入学後

教育・学生支援部、健康管理センター、所属学部又は研究科、人権委員会の相談窓口、学長が指名する教職員(教職員対応要領第8条)

2. 面談 支援を希望する学生及び保護者等

【対応】学生の特性や取り組むべき課題、支援希望の内容等について把握

教育・学生支援部、健康管理センター、所属学部・研究科等の教職員(監督者※を含む)による協議。

3. 申請 修学支援申請書【別紙1】を記入し【相談窓口】に提出。

※主治医診断書等(必要な支援内容が記入されているものが望ましい)

【対応】支援の決定

- 1) 協議:所属学部(監督者※を含む)、教育・学生支援部、健康管理センターの教職員等
- 2) 通知:決定された支援内容・体制を検討・決定し、学生本人へ通知

4. 支援の依頼・実施及び支援内容の見直し

1) 支援依頼

学生部長は、必要な情報や支援について記載した「支援依頼書」を作成し、その支援を学内関係者へ依頼。

※学生及び担当教員に個別の指導・助言などを行う。

2) 支援の実施

教育・学生支援部及び所属学部・研究科(監督者※を含む)を中心に、健康管理センターほか関連部署による連携を図り、速やかに学生への支援を提供。

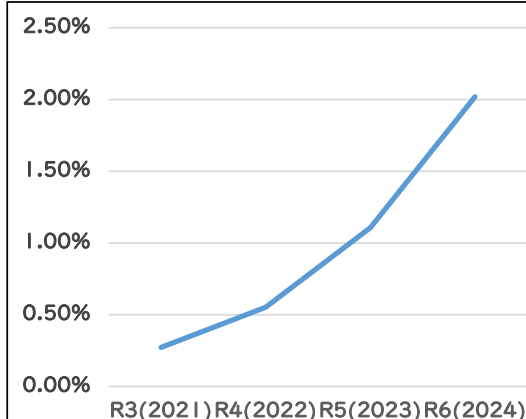
3) 支援の見直し

学生部長、学部長・研究科長、学年担当教員、教育・学生支援部、健康管理センター等の関連する教職員により、支援会議を開催、支援内容や実施体制について協議。

※監督者:部局等の構成員から選任。監督責任者を補佐するもの(教職員対応要領第4条)

◎ 障害のある学生の在籍状況

➤ 高知県立大学

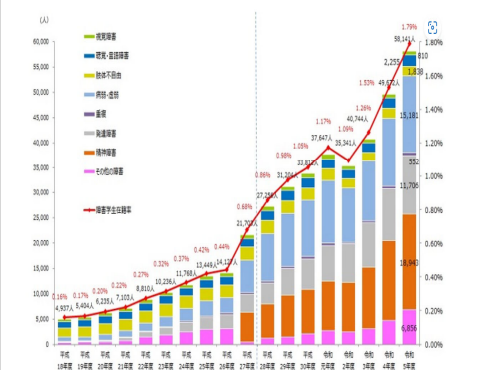


障害学生の支援申請数/在籍数

※在籍者数は各年度の学校基本調査学士課程在籍者数

➤ 全国の大学等 (短期大学・高等専門学校含む)

令和5年5月1日現在における障害学生数は58,141人(全学生数3,247,212人の1.79%)で、前年から8,469人増、障害学生在籍学校数は998校(全学校数1,168校の85.4%)で前年から28校増となりました。



日本学生支援機構2023年度調査結果概要より

▣ 教職員が理解を深め対応していくために各学部における合理的配慮の状況を共有していく仕組みを構築中

- ・学部ごとに障害別対応一覧を作成し学生委員会で共有
- ・担当者や担当教員による情報共有の場を設定

2 学生支援の現状と課題

- ◆ 精神障害を抱えているために授業に思うように出席できないという学生からの相談が増加している。
- ◆ 自閉症スペクトラム症や注意欠如多動症のため合理的配慮を希望するという相談が寄せられるようになり、発達障害により授業に支障が出ると悩む学生もいる。
- ◆ 学生が抱える悩みは年々多様化しており、対応に戸惑うことが多くなってきた。
 - ▶ 教職員対応要領を基に合理的配慮を行ってはいるものの、学生が抱えている障害の状況によっては、学生自身の努力によりどこまで学修を行っていくのか、大学の合理的配慮はどこまで行うのかという判断が難しく、専門知識が必要となる。
 - ▶ 非常勤職員による対応や職員の人事異動などによって、常に担当者が入れ替わることになり、未経験者の養成に対する時間やコスト面、加えてキャンパスごとの対応となり、徐々にノウハウが継承されにくくなる面がある。
 - ▶ 今後、就職支援関連の知識やスキルを高めていくことが必要となる。
- ◆ 合理的配慮を申請していないが、なんらかの支援を必要としていると見受けられる学生がいる。
 - ▶ 学生自身が障害を自覚しておらず意思表示がない学生も存在しているようだが、そのような学生の把握及び対応をどうするのか。
- ◆ 学生のために限られた予算でどこまでできるのか。

2 学生支援の現状と課題

現状のまとめ

学生支援	現 状
学習の継続に事情を抱える学生への支援	◆ メンタル不調などの学生が増加している。 ◆ 様々な要因が重なっている。 ◆ 1回生の時点で大学生生活に躓く学生が表れている。 ◆ 連絡がつかず面談も実施できない学生がいる。 ◆ 連絡がついても面談自体を嫌がる学生もあり、様々な方法を検討する必要がある。 ◆ 面談を実施しても状況が改善されない学生もいる。
経済的支援	◆ 給付を継続できない学生は、成績不振、不登校、メンタル不調、経済的なことなど、複数の課題を抱えていることがある。
障害のある学生への支援	◆ 精神障害を抱えているために授業に思うように出席できないという学生からの相談が増加している。 ◆ 自閉症スペクトラム症や注意欠如多動症のため合理的配慮を希望するという相談が寄せられるようになり、発達障害により授業に支障が出ると悩む学生もいる。 ◆ 学生が抱える悩みは年々多様化しており、対応に戸惑うことが多くなってきた。 ◆ 合理的配慮の申請はしていないが、なんらかの支援を必要としていると見受けられる学生がいる。 ◆ 学生のために限られた予算でどこまでできるのか。

2 学生支援の現状と課題

課題のまとめ

学生支援	課 題
学習の継続に事情を抱える学生への支援	▶ 学生支援の質も求められる。 ▶ 学生支援を必要としている学生自身の現状を把握し、学生の立場を理解することも必要。 ▶ 教務の知識に加えて、学生支援に必要な知識全般を把握し理解することが求められ、学生に応じて、習得した知識を柔軟に使い支援していくことが必要。 ▶ 引き続き、必要に応じて保護者とも連絡を取りながら教職協働で支援していくことが重要。
経済的支援	▶ 経済支援の方策について、包括的に熟知する必要がある。 ▶ 休・退学や授業料納入に関する知識が必要となる。 ▶ 学生対応における知識と経験を蓄積し継承していく必要がある。 ▶ 関係各署との連携が一層必要となる。
障害のある学生への支援	▶ 対応要領を基に合理的配慮を行ってはいるものの、学生が抱えている障害の状況によっては、学生自身の努力によりどこまで学修を行っていくのか、大学の合理的配慮はどこまで行うのかという判断が難しく、専門知識が必要となる。 ▶ 非常勤職員による対応や職員の人事異動などによって、常に担当者が入れ替わることになり、未経験者の養成に対する時間やコスト面、加えてキャンパスごとの対応となり、徐々にノウハウが継承されにくくなる面がある。 ▶ 今後、就職支援関連の知識やスキルを高めていくことが必要となる。 ▶ 学生自身が障害を自覚しておらず意思表示がない学生も存在しているようだが、そのような学生の把握及び対応をどうするのか。

3 今後の展望と必要な対応

引き続き、**より柔軟で包括的、かつ持続可能な**支援体制を構築し、必要な手立てを講じて学生が安心して学びに専念できる環境づくりを推進していくことが重要

学修者本位の教育を実現していくために、教職員全体で障害に関する知識と学生支援への理解を深め、協働して学生のWell-beingを支える姿勢が一層必要となる

◎ FD/SDの計画的・継続的な実施

- ▶ FD/SDのコマ(日時)を年度計画に予め定める
 - ・年2コマ程度
 - ・授業がない夏季休業中などに設定
- ▶ 学生支援の現状について、ざっくばらんに話せる座談会のような研修
 - ・学部ごと

ご清聴ありがとうございました。

高知県公立大学法人

